

開けば入る ● 梅原ひろみ

夕暮れの桜並木に風吹きて思想の花びら散るひとところ

口吸ひの絵を見てひとり帰る道小川の岸に暗き穴ある

山の端はにほの白く咲く花のごと点りてをらむ過ぎたる恋の

肉叢しむらを持ってあますほどの豊穡のぶら下がれるを潜くりて来たり

西洞院塩小路角にドアありて開けば入る求職のため

階段を駆け降りるとき踊り場にすれ違ひたり老いたる我と

開ききるぜんまいの葉の揺れてをり戻るつもりで置いて来し地獄

うすべにの鋏かざして沢蟹の迷ひ出でたる金地院前

久々に会ひたる人のポイとよこすちあきなおみのムード歌謡集

あなたなら「泣くの歩くの死んぢやうの」歩き過ぎなり付け根が痛い

鈴虫の喰ひたる茄子のふがふがのやうなり味気なき君の声

熱帯を呑みまし温ぬきかたまりをもはりもはりと身に収めまし

もう会はず人増えてゆく花の咲くゴブラン織りのカーテンを架け

産まざるは割に合はぬと言ひしころ「損得でモノを言ふ」と言はれき

欲しかつたのかと聞くならずつと欲しかつた子供ほろほろほつれて歩く

日曜日避けて観に行くモネ展の睡蓮の浮く水際に立つ

永興寺やうこうじの夕べの鐘の流れ来ぬ水面にひとつ口ひらきたり

両脚を揃へて浮かせ羽ばたけば白き翼を人は見るのみ

役立たぬ者とふも役、こぼこぼと音立てて飲む夏の焙じ茶

ほの白き雄花揺らして風わたり栗の太木匂ひ立ちたり

受賞の言葉——梅原ひろみ

歌を作るのが楽しくて幾らでもできた時期から何年も経って作歌ペースが落ちていく中、自分は既にピークアウトしたのだと思っていました。今回の受賞で、それでもいいからちゃんとやれ、と叱咤激励して頂いたように感じています。選んで頂いて有難うございました。幸綱先生、初心から手ほどきして頂いた足立先生、川西カルチャー教室以来の兵庫の皆様さん、ベトナム在住時に学びの場となったネット歌会の皆さん、また歌のご縁でお会いした全ての皆さんに感謝申し上げます。そして予選落ちが続き応募意欲が萎えそうになっても、毎年の楽しい恒例行事にしてお尻を叩き続けてくれた京都の愉快な仲間達、どうも有難う！

